

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、鴨江圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和3年2月10日（水）9時30分から11時まで
参加者	委員：9人 関係機関：9人 （高齢者福祉課：1人、福祉総務課1人、中区長寿保険課1人、地域包括支援センター鴨江：2人、市社協4人）
場所	福祉交流センター 大会議室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 協議内容</p> <p>①ロコモーショントレーニング事業の紹介</p> <p>■事業説明（浜松市高齢者福祉課）</p> <p>「はままつ友愛の高齢者プラン（令和3年度～版）」から抜粋して説明。 今後は『社会参加+介護予防』という観点が重要視される。 フレイル予防としても社会とのつながりを持ち続けることが大事。</p> <p>■鴨江圏域の団体紹介、ロコトレの体験（地域包括支援センター鴨江）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鴨江圏域内のロコトレ実施団体の紹介（西：11、県居：6、江西：7）。それぞれの団体が『ロコトレ+〇〇（輪投げ、リズム体操、合唱、麻雀等）』といった+αの形で取り入れている。 会場は、自治会館、協働センター、福祉交流センターを主に使用。興味のある人は近隣団体を教えるので、包括に問い合わせしてほしい。サロン名や場所のみであれば市のHPに掲載されている。 ・ロコトレメニューの開眼片足立ちとスクワットを体験した。 <p>②地域の力、居場所の効果（浜松市社協CSW）</p> <p>パワーポイント資料を用いて説明。 居場所の必要性を説明し、市内の活動事例を紹介。 また、圏域で作成した社会資源マップを活用した成果物作成にも触れた。</p> <p>③成果物作成に向けた意見交換</p> <p>スケジュール表を用いて、SCより説明。</p> <p><以下、意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の案や策を示してもらわないと、地域任せでは困る。 →地域で使いやすいものを作るために地域で声を上げる必要がある。 ・協議体委員や各自治会長に渡しても上手く引き継がれない。地域の会館に掲示しても利用する人しか見ない。 →作って終わりではなく、掲示・配布・周知についても検討が必要。

	<ul style="list-style-type: none"> ・マップは公共施設に掲示できるよう大きなものがある。配布よりも掲示を重視したほうがいいのではないかと。 ・成果物が完成することよりも作る過程を重要視したい。作成段階から携わった人は自分事になり、活用すると思うので地域ごとにワークショップをやってはどうか。 ・自治会活動についてもあり方や組織再編が挙げられている。今までは子どもを軸にイベント・事業を考えていたが、高齢化社会の中で何をやっていくべきか、検討する時期が来ているのかもしれない。 ・医師会から発行されたドクターマップは孫の受診時だけは活用する。 →ワークショップ実施も踏まえて、作成計画を練り直し、次回会議に再度提案。 <p>3. 次回開催について</p> <p>日時：令和3年6月23日（水）9：30～、</p> <p>会場：福祉交流センター2階 大会議室</p> <p>4.閉会 鴨江圏域生活支援体制づくり協議体 会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>成果物作成に向けて準備していく。 (ワークショップの検討、スケジュールの見直し等)</p>